



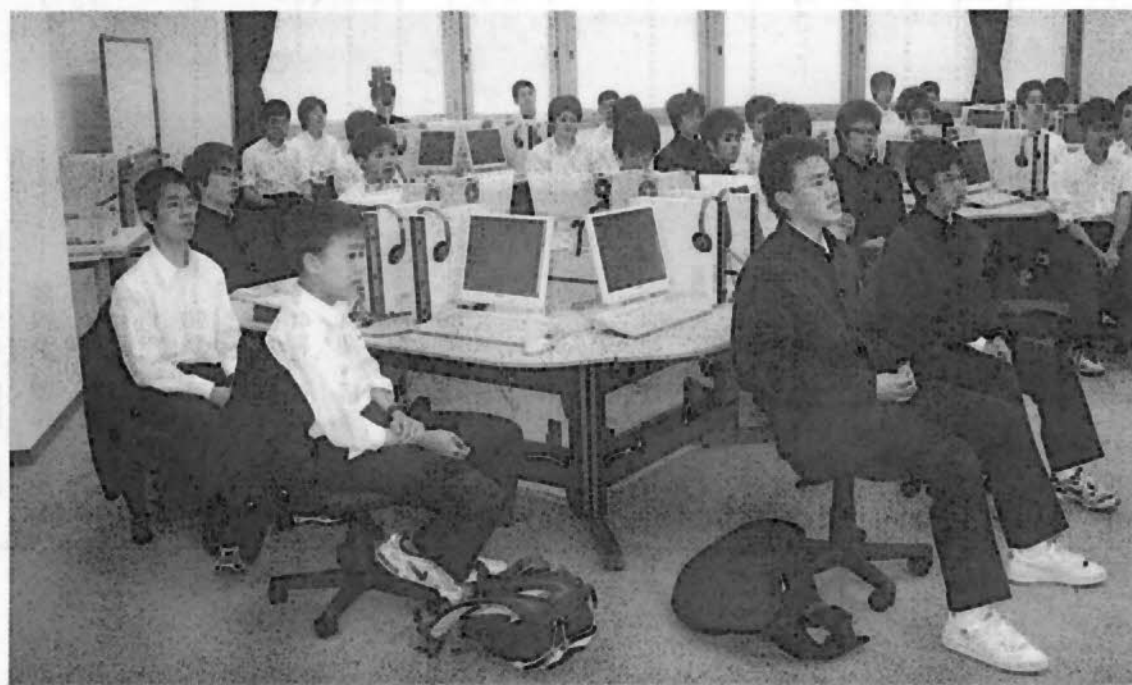
高崎高校同窓会報

2005

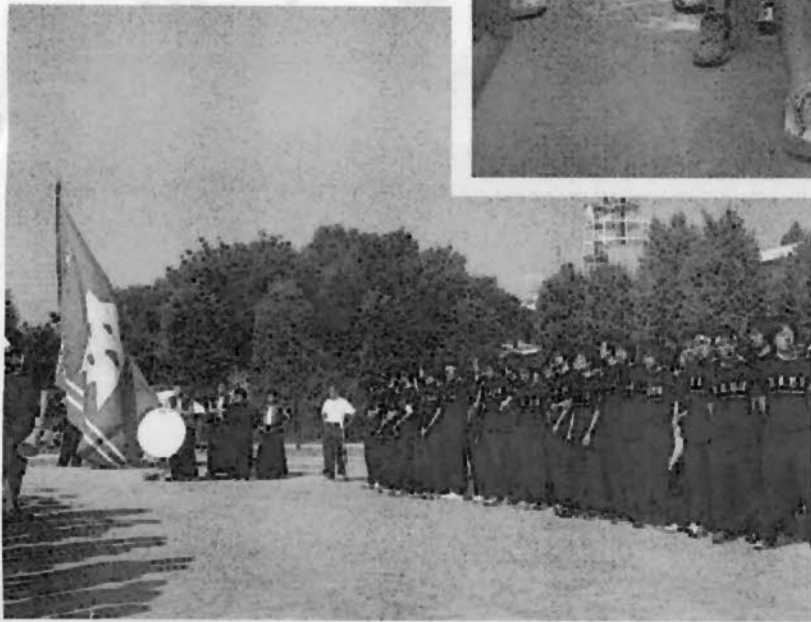
第39号

平成17年11月30日

特集／HSの現状と今後



GRAPH
FILE



高高同窓会報 No. 39 目次

あいさつ

こあいさつ 同窓会会長 横田 英一 3

こあいさつ 学校長 栗原 健 4

粗食に耐えて 同窓会副会長 有田 喜一 4

論壇 同窓会副会長 有田 喜一 4

韓国と北朝鮮 56期 百瀬 格 5

特別寄稿 未来を拓く後輩に期待 46期 佐藤 幸雄 6

アムビヴァレントな高高 66期 國峯 陽一 7

たかが甲子園、されど甲子園 76期 高田 勉 8

母校の教員として 86期 中村 健一 9

特集 母校の教員として 86期 中村 健一 9

●HSクラスの現状と今後 10

海外の同窓生 遙かなる嶺 64期 萩原 淳 12

同窓会だより 東京同窓会 62期 山本 忠順 13

熱き思い——五十年経ても忘れぬこと—— 54期 吉永 哲郎 13

同窓会本部から 卒業生の作品紹介(21) 57期 植原 千明 15

●聖書文庫 15

●聖書文庫 15

●聖書文庫 15

●聖書文庫 15

●聖書文庫 15

●聖書文庫 15

●聖書文庫 15

●聖書文庫 15

●聖書文庫 15

●聖書文庫 15

●聖書文庫 15

●聖書文庫 15

●聖書文庫 15

●聖書文庫 15



いあいさつ

同窓会会長 横田 英一

日ごとに肌寒さも増し、観音山の木々も色づき始めてまいりましたが、同窓諸兄の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。今年もまた、各界における同窓諸兄のご活躍について見聞する機会が多々あり、同窓会といたしましても誠に誇らしく、ご同慶の至りであります。また、日頃より本同窓会、ならびに母校高崎高校の諸活動に対し、ご理解、ご協力を賜っておりますことに改めて御礼申し上げます。本同窓会も皆様の活躍に劣らぬよう、より充実した活動を行ってまいりたいと考えております。

さて、ここ数年の母校の躍進につきましては、同窓会報の紙面を通じて皆様方にお伝えしてきましたとおりでございますが、特に昨年度の進学実績には目をみはるものがあり、その成績は、全国公立高校の中でもトップクラスに位置するものであります。職場や地域の話題として皆様方も耳にされたこともあるかと存じますが、私も同窓の一員として、甚だ喜ばしく、また誇らしく感じたものでございます。このような成績を残せましたのも、ひとえに後輩達の指導にあたられている教職員の皆様方のご尽力によるものと思ひ、同窓会を代表して感謝と御礼を申し上げる次第であります。

さらにこの四月からは、平成十四年度に文部科学省より指定を受けて実施されております、理系分野でのSSH（スーパーサイエンスハイスクール）クラスに並び、文系分野においてのエキスパートを目指すHS（ヒューマンサイエンス）クラスが、学校独自の事業として設置され、より一層の飛躍を図るべく努力なされていると聞いておりますが、同窓会といたしましてもできうるかぎりの支援を行い、今後の母校の進展に益々の期待を寄せたいと思っております。

また、本同窓会においても、皆様方のご理解、ご協力を頂き、その活動も順調に推移してまいりましたが、来たる平成十九年には、母校高崎高校が創立百十周年を迎えることとなりました。現在のところ、学校側から同窓会に対し特別の要請等はいただいておりますので、記念式典の開催を中心としたものになるかと思いますが、その節には皆様方のご協力をお願いいたします。

今後、会員相互の親睦をさらに深いものとし、同窓会活動をより一層充実したものとしていくうえでも、各地域や、職場における同窓会活動の活性化や、会費納入をはじめとしてのお一人お一人の同窓会に対するご支援は不可欠なものであり、

現在までも多大なご尽力を頂戴していることを重々承知のうえでのあつかましいお願いになりますが、改めて同窓会活動への今まで以上のご協力をお願いしたいと考える次第であります。特に、次代を担う若い世代の同窓の方々に、同窓会活動への積極的な参加をいただき、本同窓会に新たな活力をもたらしていただくことで、今まで以上に充実した活動が行われるようになることを期待しております。何かとお願ひばかりで、誠に恐縮でございますが、同窓会および母校発展のために何卒ご理解賜りますよう重ね重ねお願い申し上げます。

思いますれば、私が同窓会長としての務めを続けてこられましたのも、先輩諸兄をはじめとした皆様方のご支援、ご協力があったことであります。本部幹事の方々や、常任理事、理事の方々はじめ、さまざまな形で本同窓会活動にご支援賜りました同窓の皆様方に対し、改めて感謝申し上げます。

（群馬トヨタ自動車㈱ 代表取締役会長 50期）



あいさつ

学校長 栗原 健

はじめに、同窓会報第三十九号の発刊を心からお慶び申し上げます。

同窓会並びに会員の皆様には、平素から本校の教育活動に対する温かいご理解と心強いご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。お陰様をもちまして全般にわたり確実に成果をあげているところであります。このことに改めて深く感謝申し上げます次第です。

現在、教職員と生徒が一体となって県内屈指の進学校として、更には全国のトップ校として大いに気を吐いているところであります。その背景には文武両道の気概をもって「高高」を盛り上げていることとする自負と自信に裏付けされた心意気があるからです。今春の進学実績はまさに大躍進を遂げ、それらの結果はマスコミ等でも再三取り上げられたことから全国的にも注目され、多数の学校視察を受け入れている状況です。現役合格者数では国公立二〇〇名、主要私大八一名（早慶合格総数は公立高校では全国一位）、現役合格率では九二・七％（昨年度は八二・九％）と大きく伸びています。このことは「高高」という環境の中で生徒自身が互いに磨き合い、競い合い、実力を養ってきた所以であり、学業と部活動の双方に対して意欲と情熱をもって取り組む熱血主義がもたらした結果だと言えます。今後にあつては、こうした結果

に倣うことなく、どこまでも挑戦者として全国有数のトップ校を目指し、勝ち抜いていきたいと考えています。無論、大学入試に合格さえすればよしとするものではなく、大学や大学院の先を見据え、社会の姿を示唆しながら、最終的には「自分の選んだ職業を通じていかなる社会貢献をするのか」という視点から自己の将来像を明確に描かせることが大切です。将来にわたり、高専で学び育った生徒諸君が、知力、体力、品格、教養を備えた有為な人材として各方面で活躍されることを願うばかりであります。高専の三年間では、その基礎づくりを着実に進めていかなければなりません。

今年度から、スーパーサイエンスハイスクール事業は前回の三年間に続き、新たに五年間の文部科学省指定を受けるとともに、一方では本校独自の新規事業として県教委の承認及び同窓会等のご協力もいただきながら、スーパー文系とも言うべきヒューマンサイエンスクラスを立ち上げ、生徒個々の多様な学習ニーズに対応しております。部活動面では学芸部・運動部ともに健闘しており、県高校総体は値差で第四位、幾つかの部が関東大会や全国大会への出場を果たしております。今後とも、同窓会の皆様から変わらぬご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。あいさついたします。



粗食に耐えて

同窓会副会長 有田 喜一

「粗食が良いですよ」テーブルを拭きながら食堂のお手伝いさんが話してくれました。

この頃世の中は健康ブームです。そのブームにのったわけではないのですが、私も人參療法に挑戦すべく伊豆の山奥に出かける機会があり、目下その虜になっていました。

別に医学を志している訳でもなく、単に糖尿病薬を七十歳までは飲まずにいたいという希望で試してみようと思っただけです。もともと若くして糖尿病予備軍と言われてきたものですから余り抵抗なく挑戦が始まりました。

十日の予定でクリニックにお世話になり、退院時は全く正常な血糖値にびっくりしてしまいました。

薬を飲まずに居られるものなら仕事から粗食を心がけるのが大変難しいのですが、その後退院時に教わった方法即ち、朝は前夜から空腹でいるのだから何も沢

山食べる必要はなく、人參ジュースをコップに三杯飲むだけで十分ですとの教えを守り、昼は盛りそば一杯ですまし、夜は宴会があつたり二次会に付き合ひながら適当にトータルカロリーを千五百キロカロリー以下に抑えるべくひたすら努力

を続ける事にした訳です。すでに半年ほど続けていますが目下のところ血糖値も薬の厄介にならない程度で安定していると勝手に解釈しています。体重も一時より九キロ減と大幅に減少、ウエストも五センチ縮めましたので、ズボンのウエストを全て締め元に戻らない制約をつけました。

これからの時代自身自身の健康は自分で管理せざるを得ないと思いますが、それが国家財政健全化の第一歩ではないかと考えています。

ちなみに私は食事療法のほか一日一万歩、またはスクワット（森光子さんの健康法ですが）を一日百五十回のどちらかをすることにしています。

今までの効果は水虫が引つ込んだこと、お腹が凹んで靴紐が結べるようになった事、お腹がいつも空いていることなどの効果があるようです。

今や我々は贅沢三昧の上に健康に注意をし、太り過ぎを嘆いているのです。又医療費の増加に悩んでいることを考えると自分自身で出来ることはすべて行う必要があると思うこの頃です。

（群衆化学工業（株）取締役社長 60期）

論壇 韓国と北朝鮮

百瀬 格



▼「日韓友情年とは」

日本が韓国と国交を正常化して今年が四十年目に当たり、それを記念して「日韓友情年」としているが盛り上がり欠けている。韓国人にとっては友情年としたところで、靖国や竹島そして歴史問題などのしこりが解決したところにならないことを良く知っているからである。「四」という数字は韓国でも「死」を連想させ忌み嫌われているので、どうも友情年を仕掛けたのは韓国側の目先を変えようとしたこざかし日本人の発想であろう。（日本でも「四」という数字は嫌われる。「四十」なら問題ないとしたのか）どうせ仕掛けるなら五十周年までの十年間を、日韓に横たわるしこりを解す努力をする友情年間とすべきだったと思う。そしてこれからの十年間には、韓国人にとって忘れることの出来ない歴史上の出来事である安重根の処刑（伊藤博文の暗殺犯）や日韓併合条約などが丁度百年を迎えることになる。その時になつて慌てることなく日本がどう向き合かなければならないか、この十年で心構えをしておくことも必要ではないだろうか。

▼「北朝鮮への経済支援」

日本は北朝鮮に対して国交正常化後

の経済支援を約束している。中国を議長国にした六カ国で核問題を協議しているが、軽水炉で決着したとしても、金を出す国は日本である。韓国が北朝鮮に対して電力の供給を提案したが、送電線などの設備に掛かる金は日本に負担させる腹積もりのようだ。日本を除いた五カ国が、日本の懐を当てにしている。放題の相対である。あまり好ましい例ではないが、札東で面を張ると言う言葉があるが、日本がその位の覚悟を持って取り組みたくない（イニシアティブを取る）となかなか纏まらないと思う。先ず、日本が経済支援のプランを提示してはどうか。例えば、黄海側と日本海側の港湾を整備して貿易の振興に備える。漁業を充実させるために漁港の整備と漁船の提供をする。大型の水力・火力発電所を建設し、一部の電力を中国と韓国に売電する。既存の製鉄所や造船所のリハビリ。等々であるが日本は既に韓国で実証済みである。韓国は日本と国交正常化後の経済支援でインフラの整備に取り組んだ。インフラの整備には、多くの国民を動員することができ、農業以外に就業先がなかった国民生活を安定させることが出来たのである。北朝鮮でも全く同じことである。北朝鮮のインフラ整備には、中国や韓国からもセメントや鉄

鋼製品などの資材を調達することが出来る。日本からの経済支援の資金で調達するので、中国も韓国も安心してものが出せるし、特需となる筈である。拉致問題を解決してから国交を正常化し、それから経済支援をすることは当たり前前のことであるが、そんな常套手段が通じない相手である。こつちの水は甘いぞと経済支援のプランと金をちらつかせて交渉することが時に必要である。インフラ整備の資材を中国や韓国から買い付けるのであるから、両国に北朝鮮を説得してもらおうように根回しをする努力も必要である。北朝鮮との交渉を見ていると、あの手の手と総動員である。日本も真っ正直な態度で交渉するだけでなく斜に構えたり、時には交渉を蹴っ飛ばすくらいのことやるべきである。

▼「北朝鮮の拉致」

なぜ拉致されたのか。工作員への日本語の教育係と言われているが日本人以上に日本語を上手に操る人は沢山いる。朴大統領の暗殺未遂事件（夫人の陸女史が死亡）が起きた時のことであるが、犯人が日本の旅券を持っていたので第一報は、日本人による犯行と報じられた。テレビ、新聞は勿論、韓国中が日本を非難したのである。私は、製鉄所の建設で駐在していたが、肩身の狭い思いをしたことを良く覚えてい

何か問題を起こすことは生理的に我慢できないのである。拉致は、韓国に対する破壊工作をするために日本人を利用したとは思えないのである。韓国では、一九八六年アジア大会、一九八八年にはソウル・オリンピックの開催が決まっていた。平壤から直線で六十キロくらいに位置するソウルで世界規模の催しが行われることは、北朝鮮にとつて穏やかではない。日本人に爆発物を持たせて競技場に潜入させる。万一破壊工作に失敗しても犯人が日本人と判れば、親しくなり始めた日韓関係に冷や水を浴びせる効果は充分である。

▼「日本は韓国に経済界の大物を大使として派遣すべき」

日本の経済界は、韓国の経済界と良好な関係を持っておりトップ・マネジメント同志の交流も盛んである。最近毎日両国で一万人以上の人たちが往々来していると言われている。韓流に乗った観光客も確かに増えているが、大部分はビジネスマンの往来である。経団連の会長職に相応しい大物が、大使として赴任され苦勞なことだが韓国中を講演して頂きたいのである。日本がどうして経済大国と言われるまでになったかを、ご自身の経験をもとに韓国民に話して欲しいのである。韓国の経済界も諸手を挙げて歓迎してくれると思う。そして日本との関係改善に向けて勇気を持って行動してくれる筈である。

（韓国・三井物産株式会社 顧問 56期）

特別寄稿

未来を拓く後輩に期待

佐藤 幸雄



● 高高的生徒が県下でも先端をきり、心身共に元気で活躍との事、頼もしい限りです。群馬県は明治初期から難治県とされ、徴兵検査の学科試験では下位だったのが、現代、小中学校全国テストでは中位に位置しているようです。

● 忘れ得ぬ敗戦の日

六十年前の八月十五日、太陽が酷しく蒸し暑い日でした。工場動員二年目の四年生の時でした。前日十四日の晩から高崎空襲。私の疎開先榛名山麓の台地から目にするB29の爆撃、探照燈・高射砲・高射機関銃での応戦。下和田町の祖母達が気になり夜道を駈足で、高崎に向かいました。連雀町郵便局本局の辺りは真赤な瓦礫の海、電柱は火を吹き、切れた電線は大きな輪になって、電車通りを塞いでいました。

祖母らの無事を確認、一眠り、翌十五日昼ごろ、山田航空へ。米機の機関砲で屋根に穴があき、人影も疎ら。初めて山田航空の人から敗戦を知らされ、力が抜けてしまいました。トボトボ疎開地旧久留馬村まで帰りました。

幾度も幾度も昭和史なぞる敗戦忌
——ゆきを——

● 農村宿泊 工場動員 連帯感

昭和十七年入学した私達は、一、二年でも農村動員、特に二年の宿泊動員では、当時不足がちだった米の飯が食べられたのが嬉しかったのです。十九年の三年生では岩鼻火薬所の堰堤作りを工兵隊から教わり、田植手伝等した後に七月、A・B組は榛名航空（江木町）、C・D組は山田航空（東町）へ動員。中島飛行機関係の工場で、榛名では旋盤、フライス盤、ヤスリかけ、鋳物作業等。山田ではエアハンマー、電ドル使用で鋸打、尾翼組立、零戦の導風筒（空冷用）組立、木槌を使つての板金作業等検査などに取組みました。

工場内での授業は国、理、数、教練等を行い、後期はありませんでした。空襲発令時は高中防衛及び校区の小学校防衛・防空監視に当り、警報解除後は、再び工場へ戻るといふ繰返しでした。

思えば満足な授業は一、二年の時だけ。部活動では、陸上、体操、野球、剣道、柔道、ラッパ部、ブラスバンド部等。ピンタや軍靴で蹴られるのは日常茶飯事の体罰で、剣道、柔道は選抜制で必修。五月二十日開校記念日では一万メートル走で先輩たちに負けじと力走。寒稽古も早朝実施後、授業を受けました。

● 孤高 多角的視点 民主化

戦中は食料難、物資不足、栄養失調、蚤等に悩まされ、しらみのパンツは茹でて乾かしました。学校長はじめ皇国史観、超国家主義的教師から、自由主義的雰囲気のある教職員もいると云う幅がありました。就中、英語のW先生は、出るクラス毎に日本の敗北を予言し、「戦後に備えて勉強せよ」と諭されました。まさに高中の生徒や教師に、衝撃を与えたものでした。

敗戦後は超インフレ、価値観の大転換、二年から合格入隊した陸幼、予科練、海兵などの友人らの復員復学、海外や疎開者の転入で生徒数の増加。先生方も民主化に戸惑う有様。街には米兵のジープ、菓子や食料をねだる子供達。教科書に墨を塗り、「民主主義」の勉強。中断していた学芸・運動各部の活動も再開、文芸部「翠巒」タブロイド版二回発行。昭和二十一年、四年で卒業した者と、二十二年の卒業と、それぞれ混沌たる社会に果立ちました。私達の学年は学業面では十分な学習がなされなかったかも知れないが、他では得られない友情や貴重な体験が得られた学年と言うべきでありましょう。（同窓の立川、中村、森平諸氏と語り合う。）

（小、中、高、専門学校教職経験 46期）



特別寄稿

アムビヴァレントな高高

國峯 陽一

私は新年恒例の高高同窓会を毎年楽しみにしています。「知者は楽しみ、仁者は命長し」という孔子の言葉の様に、同窓の諸兄が懇親会場で校歌・翠巒・綴会の歌を歌い、昔の高高時代に戻り楽しく語りあっています。残念な事は、会場内にタバコの煙が充満し、息が苦しくなることです。最近の勢からも禁煙にする時期だと思います。

九年前の高高創立百周年記念の第九十五回同窓会新年総会を、私達六十六期が担当させて頂きました。小林優公君を中心に群馬在住の有志が集まり、企画や準備に楽しい会合を一年間持ちました。

私は、昭和三十九年の入学でした。校門から続く銀杏並木と鬱蒼としたヒマラヤ杉が特に印象的でした。受験勉強から開放された私の時間はゆつくりと流れました。清野幸雄先生の古文、久保誠二先生の地学は、高高ならではの新鮮な授業でした。英語と数学の習熟度別授業は、優越感と劣等感の相反する感情が自分の心の中に錯綜する複雑な思い出になっています。秋になり、同級の関口博君に誘われて入った弁論部は、デイベートが飛びかう未知の、大人の世界でした。「翔ぶ前に見よ」を逆に

した「見る前に翔べ」という言葉が流行し、「知識だけではなく行動せよ」という考えに、私は強く啓発されました。

二年生の翠巒祭三日目に事件は起きました。「他校の生徒が紛れ込んでいる」という理由で、フアイヤーが突然中止になりました。その夜、講堂に生徒が集結し、異様な興奮状態になりました。当時、生徒会や生徒の間には、届出制から許可制に変えられた生徒心得に対する反撥と高高的の自主性が失われる危機感が存在していました。

翠巒祭実行委員だった小林君と私は、「高高的の混乱の收拾」という責任と義務を感じました。小林会長の下での筋を通した生徒会活動は、高高的生の信頼と共感を得て、一年後に結果を残せたと思います。生徒会の仲間との様名湖キャンプ、静岡高校見学、定期戦、群馬の発行、翠巒祭、生徒総会、名門高高的の想い出は次々と思ひ浮かびます。仕事をちゃんとする方が、そうしない理由を説明するよりたやすい。これは勉強にも他の事にも当てはまります。卒業後、失敗を重ね自身を失った二年間の不安の中で「自分の選択した道は迂回路であり、行き止まりではない」と自分に言いかけ続けました。

本来、大学入試は公平であるべきです。面接重視、推薦入学でさえ不公平の一面があります。ましてや、私学の中高一貫教育に対し、地方の生徒は金銭的、地理的条件に加え、公立校としてのゆとり教育の方針で不公平が否めません。高高的の教育特区のクラス設置は、生徒が将来の夢や職業の選択を広げられる優れた教育システムです。私は卒業生として期待しています。しかし、受験競争の激化と相反する気持ちもあります。教育は文化の継承です。大学教養部の縮小、専門教育の前倒し、高校の課目削減等は、人間形成の場と機会を減らしています。生徒の本分は勉強ですが、学問、体育、芸術等の人類の遺産を吸収し、自分のアイデンティティが固まってから、進路を決めたいと考える生徒のいる高高。又、モラトリアムをも許容する高高でもあって欲しいと思います。

(小児科 医師 66期)



特別寄稿

たかが甲子園、されど甲子園

高田 勉



関東地区高等学校野球大会 昭和48年

【3塁走者：高田、打者：野村、3塁コーチ：清水光重（76期）、3塁手：原田徳（東海大横浜）】

「進学校のなまぬるいものだろう？」くらいに考えていた高野球部の練習は、質、量ともに県内屈指で、前年度県中体連優勝投手の私のプライドを木端微塵に打ち砕いた洗礼でした。

「甲子園なんて夢のまた夢、それにまだあと二年ある」と高をくくっていた新米部員に、本多饒（ほんだ ゆたか）監督は、「思いがなければ甲子園に行くことなどできない。下級生も、来年があるなんて思うな」と高いところを常に目指し、甘い気持ちだった私は、逡巡することしばしばでした。

入学した昭和四十九年、折しも金属バットが認可されたこの夏、第五十六回全国高校野球選手権群馬大会は開幕しました。高野は、持ち前の攻撃力で快進撃、北関東大会決勝まで勝ち進み、「あと一勝」まで迫りましたが、決勝では、甲子園でベスト四に進出した向田投手擁する前橋工業に二対八の惨敗、甲子園は夢と散りました。一年生ながら遊撃手に起用されましたが、直前の練習で右手を負傷、五三振と何もできず散々の二試合でした。

新チームは十一人になりましたが、夏休み中の無数のノックに支えられた精神力と、看板の攻撃力で、秋の県大会を勝ち抜き、準々決勝桐生、準決勝関東学園、決勝は中央を五対一で破り十八年ぶりの優勝を飾りました。

の優勝を飾りました。

第二十七回秋季関東地区高等学校野球大会は、茨城県日立市で開催され、開幕試合の対戦相手は神奈川県代表東海大相模高校。原、津末、村中、岡部など超高校級の選手が勢揃いで、揃いのスパイクとハイネックのアンダーシャツに縦縞がマツチ、いかにも強豪のたたずまい。一方高野は、少ない人数の上、スパイクはまちまち、アンダーシャツに及んではほとんど七分袖と晩秋の大会なのに見るからに寒そうで、試合前から圧倒された雰囲気でした。試合は序盤に大量失点、二回で〇対五とリードされたときは、惨敗かなと思われましたが、徐々に挽回、七回裏には遂に同点に迫りました。しかし粘りもここまで、最終回に一挙五点を追加され結局五対一〇で敗戦、またも甲子園の夢は水泡に帰しました。二年次の三大大会も一回戦、四回戦、一回戦と道は遠く険しいものでした。

最上級生になった春は、今思うと最も良い状態でした。特に打撃が好調で、一番小林俊之は五割強、二番塚越龍次は六割強の高打率で、三番高田、四番加藤、五番白石、六番徳田のラインナップは他のチームの脅威だったと自負しています。しかし春の県大会準々決勝で、石山投手擁する前橋高校にワンチャンス、三対二と惜敗（その

の前橋が優勝）、最後の夏の大会も三回戦で農大二高に〇対四と春のリベンジをされ、ついに甲子園は夢に終わりました。大会直前にまた負傷してしまった私は、執拗なバント攻撃に守りでミスを連発、チームに迷惑をかけたことが心残りでありませんでした。このことが、後に高校野球の指導者を目指す原動力になったのかもしれない。

高野野球部は、第五十三回選抜高校野球大会に出場したことで「悲運」の代名詞から卒業できました。十二日間同行した甲子園を今思うとき、球場練習で緊張感のため思うようにノックができなかったほどの手の震え、戦い終わった晩、田端穰先生と西宮市内某所にて肩を組み、涙しながら校歌と翠巒を熱唱したシーンが鮮明に蘇ります。たかが甲子園、されど甲子園。密度の高い時間を仲間と共有できた高校時代、そして卒業後も歴史的な瞬間の、その場に居合わせることでできた幸運、そこはいつも高野野球部でした。叶うことならもう一度、甲子園球場にその勇姿を見せてくれることを切望してみませんか。末筆ではありますが、最後の一年間、監督としてお世話になった故高橋正親先生のご冥福を心からお祈りいたします。

（県教委スポーツ健康課

指導主事 76期）



特別寄稿

母校の教員として

中村 健一

母校高崎高校に教員として赴任して三年目となる。それ以前は、他校から母校を、常に目標とする学校として観てきたが、今ではその母校をより良い学校・立派な学校・偉大な学校・目標となる学校（なかなか良い表現がみつからない）になるように努力しなければと思っている。

今現在の高々生は、我々達の頃と比べてどうかと問われれば、気概や勤勉さなどの点で全く変わっていないと言えるだろう。限られた時間のなかで、勉強や部活によく励み、また我々の時と同様に選挙や定期戦にすべてを賭けている者もいる。そのように忙しく活動している生徒達を見ると、在学時代の自分のことや級友達との思い出が蘇ってくる。

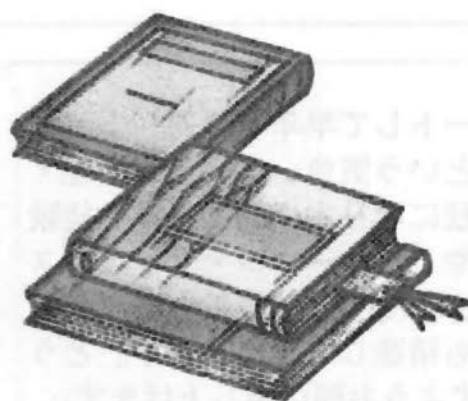
しかし、二十年も経つと事情もかなり変化してきている。我々の頃は、勉強においても現役進学率が50%行けば良い方であり、塾や予備校などの受験産業も今ほど隆盛をきわめていなかった。部活動も顧問の先生はあまり口を出さず、部員主導だったように思う。また、現在のスーパーサイエンスハイスクールやヒューマンサイエンスハイスクール事業のようなキャリア教育も大々的に行なわれてはいなかった。我々は、ただ漠然とした目標に向かって、それぞれの場面

で努力していたのだと思う。そう考えると今の生徒達はうらやましい。「あの頃は、先生がこんなに熱心に個々にアドバイスをしてくれなかった。」「顧問は部活に出てきてくれなかった。」「研究者と呼ばれる人達がどんな環境でどんな仕事をしているか、詳しく知らなかったし、真面目に考えたこともなかった。」ふと、こんな感慨にふけってしまう。これも時代の流れだから致し方ないことか。それでも、同窓会名簿を調べてみるとほとんどの同期生達は、それぞれの世界で立派に活躍している。うれしいことだ。変な言い方だが、我々の自由放任もすっかり実を結んでいるのだ。

先日、ある東大の教授が来校された時、雑談のなかでこんなことを仰っていた。「東京の公立中学校の教育レベルは落ちていく。学級崩壊は大きな問題だ。小中学生の知識量は大幅に減っているのに、大学やその先で行われる研究や技術はより高度になっている。その穴埋めは、小中高一貫校か塾に頼るしかない。」と。こうした事情を解っている親は、自分の子を必ず一貫校に入れる。有利であるのは火を見るより明らかだからだ。しかし、問題がある。そのような環境で育ち進学してきた大学生や院生は、無難に立ち回るが、

こぢんまりとして大きな飛躍が期待できないのだそう。このような状況で、これからの日本の若手研究者達に成果は期待できるのだろうか。諸外国（最近特に中国が台頭してきた）の研究者達に太刀打ちできるのだろうか。そう考えると地方出身学生の、ある意味でのパワーに期待してしまうという。時代は変わった。自由放任を捨てた高々もまた然りである。気概と勤勉さはそのままに、痒いところに手の届く指導を素直に受け入れている高々生は、素晴らしい進学実績をあげつつある。ただ前述の東大の先生が期待するような地方のパワーを果たして発揮できるかどうか。それは今後の我々の努力にかかっている。高崎高校がそして高々生がより大きく飛躍することを願って、駆けずり回っている今日このごろである。

（高崎高校 教諭 86期）



◆ビジネス・シュミレーション(トレーディング・ゲーム)

10月5日、まる一日かけて、群馬県と(株)ウィル・シードの協力を得て行った。これはゲームとはいいいながら、社会人の社員研修会で多くの導入実績がある、本格的なプログラムである。トレーディング・ゲームをとおして得られるものは技術(スキル学習)ではない、判断力・思考力(マインド学習)である。具体的には一国に見立てた各チームに、原料をあらわす紙、生産力をあらわすハサミやカッター、技術力をあらわすコンパスや三角定規などが不均等に配分されている。また、これら資源の他にもお札のお札であらわされる資金力も各国差がある。そして、与えられた条件の中で商戦をくりひろげ、ゲーム終了時に資金の残高で勝敗が順位付けられる。自国の資源を有効に活用し、他国の資源を上手に手に入れることが勝敗のポイントとなる。そのためには、相手国とのタイミングを捉えた交渉力、自国内の分業とチームワークが欠かせない。交渉とは、まず相手顧客のニーズを探り出すことから始めなければならない。職業人にとっては常識であることも、高校生にとっては新鮮な発見であったようだ。



当日の様子

◆TOEIC講座

TOEICは英語の運用能力を測定するテストで、リスニングとリーディングの2部から構成される。中学校まで受験していた英語検定に似た、英語実用技能検定試験である。英検との違いは、TOEICテストは多くの大学で英語のプレイスメントテストとして利用され、企業によっては設定した得点が昇進の条件にもなっている。

第1学年では入門用のTOEICブリッジを3回、次にTOEICテストを1回受験する予定である。現在、6月と10月に受験したが、どちらの結果も全国平均を上回り、着実に英語の力をつけていることがわかる。今後はより難易度の高いTOEIC受験を視野に入れた英語指導を行いたい。



当日の様子

生徒の様子 学級担任より

●学級担任●

間々田 功(85期)

ヒューマンサイエンスクラスがスタートして半年が経過しました。最初は「全国初めての試みである」という気負いばかりが生徒・学級担任とも先行しておりました。秋になり本格的に行事を経験するなかで、クラスの生徒にもようやくヒューマン・サイエンスとしての行動と自覚がうまれてきたようです。「文系も高高」と評していただけますよう、これからも精進してまいります。どうぞ引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

特集

HSクラスの現状と今後

「気づくこと」「現代社会で起きていることを学ぶ」という目標を掲げ、県教委や同窓会から予算の補助をいただき、新クラスが発足して6ヶ月になりました。7月まではHSクラスの活動が少なく、生徒には一保護者の方も含めやや期待はずれの印象だったと思います。9月に分野別講座(商業・経済)、第2回TOEICブリッジテスト、10月には(株)ウィル・シードによるトレーディング・ゲームと順調に計画が進んでおります。また、水口先生(高崎経済大学助教授)の講座の後、職員の紹介した「日経ストックリーグ」に参加するグループが4つ生まれたことも、うれ

しい出来事として紹介申し上げます。今後、残されたHSの活動により、生徒にどんな変化が生じるか楽しみです。

来年度は第1学年と第2学年でHSクラスが編成されます。1年次ではトレーディング・ゲームの早期実施、2年次ではHSクラスを対象に夏季海外研修を実施するべく計画を検討中です。2週間に1回65分(0.5単位)という学校設定科目の制限はありますが、HSの活動が生徒の興味を引き出し、幅広い視点で社会を眺め、将来の職業選択に役立つプログラムなるよう担当職員一同、HSクラス生徒と一緒に奮闘してまいります。

◆情報検索実習

第1回目は入学当初、学校で理論編を実施。まずは新しいメディアであるインターネット検索を正しい手順で行う方法を学んだ。また、十進分類法の詳細な理論を学び、各自で実際に図書館を使いながら、伝統的な情報源である図書館を使いこなす技術を身につけた。

第2回目は5月11日の午後、高崎経済大学附属図書館を主会場として、あらゆる学習の基礎となる情報検索実習を行った。附属図書館の司書・職員さんの指導によって、高崎経済大学のwwwOPACを利用した、本格的な学術論文を探しあてる技術を身につけた。あらゆる情報を使いこなしつつ、新たな価値を創造していく文系生徒にとって有益な実習となった。図書館見学ではなく、利用方法を実習しながら習得するという高校生としては初の試みであった。

今回のもうひとつの目玉は、平日の大学を訪問できたことである。一般に大学訪問と言えば附属高校でもない限り、大学生の活動に支障がないように休日に行われ、日常の大学生の様子を知ることはできないものである。現役の大学生がレポート・卒論作成などの研究活動を間近で行っている様子を横目でみながら、ヒューマン・サイエンスの生徒たちは目的の書架へとたどり着かなければならない。このため緊張感が高い実習となった。様々な点で困難な企画に全面的に協力いただいた大学および職員の皆様のおかげでHSの生徒たちは大きな収穫を得ることができた。



高崎経済大学情報センターにて

◆分野別講座(商業・経済)

1. 平成17年9月7日(水) 4・5限 3階 講義室にて
2. 講師：水口 剛先生(高崎経済大学経済学部助教授)
3. 内容 (1)自己紹介

(2)研究内容の紹介

- ①大型ハリケーン「カトリナ」はなぜ起きたか。
- ②私たちのお金はどこで何をしているのか。
- ③良い会社とは何か。

(3)皆さんへのメッセージ

- ①大学生に求めること。
- ②参考課題

4. 講義内容は、ハリケーン「カトリナ」の被害が拡大した社会的背景の説明を導入とし、環境問題に対する社会的責任投資といった、水口先生の研究専門領域へ及んだ。生徒が、興味関心を持って聞くことができたばかりか、専門領域の内容についても大変明快に理解できた講義で、大変有意義であった。



講師の水口先生



事前に調べたレポートをもとに水口先生に質問を行う

海外の 同窓生

遙かなる嶺

荻原 淳



毎年五月の初めになると、金米各地からのみならず世界中から二万人もの人がオマハを目指す。巡礼が聖地に向かうような趣であるが、実はパークシャー・ハサウェイの株主総会に出席するためである。もつと言うなら、総会を主催するウォーレン・バフェットと盟友チャーリー・マンガー（今回は触れないがマンガーも実に興味深い人物）の話を聞くためである。オマハはネブラスカ州で最大の都市である。ネブラスカはアメリカ中西部の平原に展開し、今でも主力産業が農業である。したがって、州きつての大都市といったところで人口四十万人程度の中都市で、知名度も高くない。この街に一時に二万人も集まるのだから、お祭りのような盛り上がりである。いや、正に祭典であって、同社の株主総会は資本主義のウッドストックと呼び習わされている。

ウォーレン・バフェットは今年七五歳、今でもパークシャーの最高責任者である。現役の経営者でありながら、「オマハの聖人（オラクル・オブ・オマハ）」と尊称され、「伝説的投資家」とも呼ばれている。それはただ単に、資産四百億ドル（四兆円）を有す世界第二位の富豪（フォーブス誌推計）だからというだけではない。

一九五六年、手金百ドル（一万円）と共同出資者の資金を元手に、投資組合を設立、驚異的な成長を遂げ、一九六五年に至り、投資の一環としてニュー・イングランドに本拠を置く名門繊維会社のパークシャーの支配権を手にした。一九六九年に投資環境の変化を見てこの組合を解散したが、バフェットは配当金の大半を同社の株主で受取り、最高責任者に就任し、パークシャーの経営に乗り出した。バフェットの投資組合に最初から出資したとすると、一千万ドル（百万円）の出資が今では四億ドル（四百億円）と推定される。いずれにしろ、バフェットと行動をともにした投資家の多くは大資産家となり、パークシャー長者と呼ばれている。自家用機を駆って株主総会に出席する投資家が相当数いることも故なしとはいえない。

パークシャーは堅実経営に努めて財務内容は健全であったが、如何せん繊維産業は既に斜陽であり、狂瀾を既倒に廻らすことはできず、繊維会社としては立て直せなかった。後

年、投資に失敗したことはないのかと聞かれ、最初の失敗はパークシャーへの投資だったと答えている。話を戻すと、同社は堅実経営故に当座資金が豊かで、これを元に業態転換を図り、損害保険会社として生き返らせた。同時に、手元資金と保険料収入を活用した積極的な投資活動によって企業規模を拡大し、極めて独自性の高い保険会社に育て上げた。コカコーラ、アメリカン・エクスプレス、ワシントン・ポスト等の米国を代表する企業の大株主であると同時に、傘下に多数の事業会社を擁し、その事業は出版社、新聞社、ジェット機区分所有会社、トレーラーハウス製造、カーペット製造、宝石店、家具屋など多業種にわたる。パークシャー・グループの規模は、二〇〇四年十二月現在で、従業員十八万人、年収七百四十億ドル（七・四兆円）、自己資本八百六十億ドル（八・六兆円）である。

並外れた経営手腕の上に、コーポレート・ガバナンスでも時代の先を行く。経営者は株主の信託を受けて企業を経営する立場にあり、株主の負担に応える義務があると、会社を私物化する経営者に警鐘を鳴らす。経営者の給与の増加に歯止めのかからない現状を憂慮し、その主因として従業員向けの株式オプションを経営計上しなくてもよいという会計処理の不合理性を指摘し、同オプションの費用化の実現に貢献した。あるいは、経営者のあり方にしても、自らの行動を律するに、単に法律に違反するかどうかではなく、道徳に照らして妥当かどうかを自己の行動基準とし、立志伝中の経営者ながら、スキャンダルとは無縁の存在である。

さらに、世界有数の富豪になっても、ごく簡素な暮らしを維持している。「私が高い服を着ても安っぽく見えるだけ」と笑いとばし、パークシャーからはわずか十萬ドル（一千万円）の給与しか受け取らず、車は自分で運転し、住居は一九五八年に約三萬ドル（三百萬円）で購入した家である。現在、米国では遺産相続税の廃止が議論されているが、社会公正に過ぎないと廃止に反対の論陣を張っている。さらに、親が資産家というだけで子供の生活が生涯保障されるというのは真つ当ではないとし、自分の財産は全て寄付すると公言し、受け皿となる財団も設立している。世界一の富豪で、マイクロソフトの創業者

であるビル・ゲイツも度々オマハを訪れる。バフェットとプリッジに興ずるためと言われるが、バフェットに人を魅了するものがあるという証左である。二人については、有名なエピソードがある。世界広しといえども、ゲイツにご馳走できる人は多くはない。ある晩二人でディナーに出かけ、帰ろうとしたら、車のエンジンが掛からない。世界一と世界二の富豪がレストランの駐車場で立ち往生。そんな光景は想像するだけでも愉快である。自己の才覚と器量に恃んで事業を起こし、金米有数の企業に育て上げる。正にアメリカン・ドリームの体現者である。しかも、清廉潔白な生き方を貫き、簡素な生活を営み、築いた財産は社会からの預かり物とこの世を去るときには社会に還元するというさわやかな生き様を人生の鑑とする人は多い。

人間万事塞翁が馬という故事が身に沁みて理解できるほどに長く生きてきた。生きていくということはいろいろな出来事に遭遇するということである。勤務先が倒産するというのはやはり大きな事件である。こんな経験はしないで済めばそれに越したことはないが、起きてしまったことは受け入れるしかない。その時は偶々ニュー・ヨークに駐在していた置かれた立場を考えると、撤退事業を遂行するのが果たすべき役目と自覚し、ベストを尽くした。それを評価してくれる人も現れ、「今の日本に帰ってくるよりも米国で独立したらどうか。できる支援はするから」という心強い助言も得た。「さて、これからどうしようか。」と模索しているときに「ウォーレン・バフェット・ウェイ」という本に出会った。立ち込めていた霧が消散し、一気に視界が開ける思いがした。撤退業務がほぼ完了した二〇〇二年八月を以って三十年余勤めた会社を退社し、事業を起こした。目の覚めるような成功には至らないが、何とか事業を継続して三年が過ぎた。途中下車を余儀なくされたことで、バフェットというこの上ない師に巡り合うことができ、遙か彼方に弾ける道を歩きながら進むべき道が決まった。今から思えば、長く求めていた道だったとも思える。今大切なのは、この道を歩き続けること。何処まで行けるかは未来のこと、未来のことは神のみぞ知る、そう考えながら、明日を夢見て今日の勤めに精を出している。

(64期)



同窓会だより

同窓会
だより
1

高崎高校東京同窓会

事務局長 山本 忠順

当会は、平成十四年に、以前の「京浜同窓会」という名称を「東京同窓会」に変更いたしました。勿論東京都に限ったわけではなく、東京周辺、神奈川・千葉・埼玉を中心に、栃木・茨城までを含めた広い範囲にお住まいかお勤めの同窓生により組織されております。また言うまでもなく、高崎市および群馬県からも、多くの同窓生にご参加、ご支援をいただいております。

当会の活動としては、まず、会誌「翠穂」の発行を上げることができ、A5版で約八十頁、会員の執筆で、エッセイ、詩・俳句・短歌、創作、近況などが自由な雰囲気で開催されています。

毎年一回の発行で、昨年は五十号という記念すべき号となりました。冒頭は、栗原校長、および母校の横田同窓会長の挨拶、そしておおむね三十名の会員の原稿により、たいへん充実した内容になりました。

この「翠穂」は、大木編集長の下、召集された編集委員が、執筆候補者の選定、執筆依頼状の発送、集まった原稿の校閲、ゲラ刷りの校正などを、いわゆる手弁当でおこなっております。

さて、当会の行事となりますと、メインは何といつても年一回の「総会」で、今年は十月二十八日に開催されました。そしてその総会の前に、総会に諮る事項を審議し決定する「幹事会」が開かれます。

今年の幹事会は、九月二日の金曜

日、新宿の京王プラザホテルにて開催され、二十五名の出席があり、重要案件についての審議がおこなわれました。

まず、任期満了に伴う神田会長と昨年逝去された梅山幹事長の後任の選出については、新会長に大木紀元現副会長が、新幹事長には水上勝之現副幹事長が選任されました。

次に、総会に伴い開催されるイベントの企画が議題となりました。昨年は講演会で、高崎少林山達磨寺ご住職広瀬正史氏に、「星の寺とだるまさん」という演題でお話いただきました。さてそれでは今年はどうしたらいいか？担当期である六十三期の会員で、検討をしていた結が、「落語」となり、その経過説明が、代表の内海孝幸氏からなされました。出演は、立川談志一門の立川笑志さんをお願いしました。

審議が一通り終わると、後は懇親となり、見下ろす新宿の夜景を堪能しながら、出席の幹事の方々の近況報告を聞き、美味しいお酒と料理に舌鼓を打ち、大いに盛り上がった幹事会でした。



同窓会
だより
2

熱き思い——五十年経ても忘れぬこと——

吉永 哲郎

「人生七十年古来稀なり」とは杜甫の詩の一節、それをたわいもなく鑑賞していた時はあつという間に過ぎ、今その稀なる年齢に達してしまいました。そして高校を卒業して五十年になることも知らずされます。

五十四期の面々がこの間に何をしていたかは別の機会にゆずるとして、卒業して五十年の記念に、同期の半田久君の黒白写真の作品「おっす！」というモノコメントを、指月庭の大ケヤキの下に建てました。その下に「熱き思いの碑——ここに佇めば／薔薇の香が／裸足で走ったグラウンドが／目に浮かぶ／卒業して半世紀／消えやらぬ熱き思いは／永遠に／」という詩のレリーフを付けました。

「熱き思い」の精神も五十年経ますと時に忘却の彼方になってしまいます。肉体の衰えはともかく、せめて心の衰えだけはなんとかなるものと思ひます。その核になつていくのが、薔薇の香と裸足で走ったグラウンドです。啄木の「盛岡の中学校の露臺の欄干に最一度我をよらしめ」の歌ではありませんが、青春時代に思いを馳せるのは、人生の果てが視界内にきた年齢になると一層強くなるものです。青春をもう一度という気持ち、想い出の中に生きる後退した気持ち、その出発点に立つ意味で、青春のシンボルとしての学舎の薔薇

の香にむせグラウンドの風景を眺め、「熱き思い」を蘇らせたいのです。人は、いつまでも甘い感慨に耽っているのだというかもしれないが、この甘さこそ私も五十四期が、この学舎で学びとった尊い精神のひとつだと思ひます。

入学して間もない英語の時間でマッカーサーの「Old soldiers never die」の言葉を教えられました。今、「老兵は消え去るのみ」といわれるほど、生きてきたかの思いがしきりとなります。五十四期は、冬木・小泉・田端君らの並々ならぬ配慮によって、毎年集まりを開いています。新しい顔を見ることがあり、そして帰らぬ人となつた友の話題が年々多くなってきました。一見意味をなさないとと思われる同期会ではありますが、集まりに顔を合わせることで、年々深い意味をもつてきていると感じます。それは残りの人生を「熱き思い」で生きようとする、意志の確認でもあると思ひます。

(54期)



◆横田会長辞意表明・次期会長候補に原副会長指名

横田会長（50期）は来年の一月の任期満了をもって会長を退くことを、九月十七日開催の常任理事会、十月十四日開催の理事会において表明されました。その上で次期会長候補として原副会長（56期）を指名し、両会において承認されました。これにより来年一月の総会では、原現副会長を軸とした新役員案が上程されることになります。

横田会長は平成十年小山前会長の残任期を受け継いで会長に就任、その後平成十二年、平成十五年と二期会長に選任され、併せて八年間会長としてご尽力をいただきました。

◆同窓会入会金問題について

同窓会入会費の納入時期について、入学時から卒業時へ繰り下げるよう県からの指導があり、当面の予算編成に苦慮しているとの事情を昨年の第三十八号にてお知らせいたしました。この指導に対して県下各同窓会から会計上深刻な影響があるとの苦情が噴出ししました。こうした事情により入会金納入時期の繰り下げのことは、従来どおりでもよいとの再指導がありました。大変お騒がせいたしました。本同窓会でも従来どおりの時期に納入していただきましたので、予算編成はまったく問題なくすすめることができました。

◆名簿発行は平成十九年です

本同窓会の会員名簿は五年ごとに改訂・発行されており、現行のものは平成十四年発行ですので、次の発行は十九年になります。このため十八年中ごろには会員宛の現況確認調査用紙が、往復ハガキにて届くと思いますのでご協力下さい。同窓会員名簿作成作業が始まったことに便乗して、まったく関係ない業者が同窓会の調査用紙

と紛らわしいものを送りつけて、個人情報入手する恐れもありますので、返信の宛先が「高崎市八千代町二一四―一群馬県立高崎高等学校同窓会」であることを必ず確認して投函して下さい。ご不審の場合は、同窓会事務局か臨時に設置する名簿発行専用電話にお問い合わせ下さい。（専用電話は現況確認ハガキに記載予定）個人情報保護法の制定で、名簿発行にこれまでにない制約が生まれています。これにつきましては、名簿発行業者との緊密な連絡により、万全に対処したいと思います。

◆翠樹セミナー

本年度の翠樹セミナーは左記のとおり実施され好評でした。

●第一回（通算51回） 六月十一日（土）

「変化を生きる」ということ

東京大学大学院教授 佐藤良明（69期）氏

一九六〇年代に高校生だった氏の当時と

現在の生きざまについて

●第二回（通算52回） 十月八日（土）

「トークつきコンサート」

サクソフォーン奏者 武藤賢一郎（70期）氏

満席の中で名曲の演奏

及び その解説



卒業生の作品紹介 21



植原

千明
57期



『私の作品』
鎧兜

もし自分が戦国時代の武将であったなら……そんな夢の影響か鎧兜作りに興味を持った。

自分で着用出来るように寸法を測り、各々の時代に流行した色々な形式の鎧に限りなく似せて製作した。材料、道具がプラモデルの様にキットになって市販されているわけではなく、様々な品物を代用したり、道具を工夫して作り、夜や仕事の合間に製作に没頭した。師匠が居る

わけではなく独学でやった。幸い本物の鎧を複数所持していたので大分参考になった。終始、金の掛からないように心掛けたが、自分なりにある程度満足出来るものが出来あがった。根気と道具があれば誰でも出来ると思う。

それを着用し、友人と共に所々の武者行列に参加して戦国時代の気分を満喫している。家族達からは呆れられている。
(医師 植原外科医院院長)

翠 戀文庫 BOOK

●著書

- アトラス 矯正に強くなる本
- 村山地雷独言集 もぐら
- 論文集
- ユーカリの北限
- いまに遊ぶ 徒然草
- 50歳から日本の古典を
読んでみませんか?

●作者

- 中島榮一郎(62期)
- 村山 地雷(久)(44期)
- 田島 進(59期)
- 田島 進(59期)
- 吉永 哲郎(54期)
- 吉永 哲郎(54期)

●著書

- 解決!センター化学I 改訂版
- 私のひろば

●作者

- 金井 明(68期)
- 牛田 啓太(95期)
- 島田 透(95期)
- 小宮 直人(97期)
- 梅澤 幸平(97期)
- 小暮 康寛(103期)
- 友松 稔(49期)

平成十七年度 褒章・叙勲受章者(敬称略)

〈春〉 藍綬褒章 大木 康行(59期)

〈秋〉 黄綬褒章 市川 克美(50期)

端宝小綬章(教育功勞) 金井 秀一(50期)

【大臣表彰】環境大臣表彰(地域環境保全功勞者) 金井 賢一郎(49期)

(注) もし遅れがありましたら、恐縮ですがご連絡ください。

母校だより

■各部の活躍・活動

学芸棟から

あまり目立つことはありませんが、本年度も高崎高校学芸部は地道に活動を続け、実績を積み上げています。

理科棟一階の全ての学芸部室は毎日遅くまで灯りが点いており、翠樟祭への熱心な取り組みを見ますと、往年のそれとは比較にならないにせよ、まだまだ高崎の学芸部には充分な熱が感じられます。七月下旬に青森で行われた、学芸部の全国大会とも言えるべき第二十九回全国高等学校総合文化祭には、囲碁部門に二年の清水健登君、一年の青山英樹君、将棋部門には三年の

学芸部長 演野 雅樹

山田進君、二年の井上知也君、高橋伸弥君が出演して大いに活躍しましたし、新聞部は全国高校新聞年間紙面審査賞で優良賞として表彰されました。また、県庁で開催される群馬公共交通フェアには、本校の鉄道研究部が毎年出品を要請され好評を得ています。

文武両道とは、学業とスポーツの両立を指す言葉ですが、学芸部が活動できない状況は健全なる人間の営みを考へたとき、やはり不自然と言わねばなりません。これからも地道な活動を支援していきたいと考えています。

平成一七年度の運動部総括

運動部長 長竹 潤

今年度の高崎の部活動状況ですが、運動部は一九の部が活動しています。参加人数は、六二五人（一年二二七人、二年二二二人、三年一八六八）、参加率六五・二％という状況です。高崎高校の伝統である文武両道の精神のもと、学業に精励し、部活動で心身を鍛えております。

さて、今年度の高校総体ですが、本校は過去五年間、様々な競技で得点を重ねることで総合二、三位の座を確保してきました。今年度は健闘虚しく総合得点七〇点と昨年と比較して一四・

五点低く、総合四位という成績でした。インターハイ予選においても、インターハイ出場は水泳のみとなっていました。

しかし、新チームに移行してからの秋季大会（選抜予選・新人戦）はテニスの団体優勝を始め、バレー・バスケット・柔道・ソフトテニスが優勝争いに加わるなど来年度に向けて好感触を得ております。現在、多くの部が来年度、県・関東・全国で活躍できるように日々努力しております。

SPORTS

運動部

- ①県総合体育大会
- ②関東大会
- ③インターハイ予選
- ④全国高校総体
- ⑤国体
- ⑥県新人大会
- ⑦その他の大会

空手道部

①個人組手

松本照林 5回戦敗退
(ベスト16)

団体組手

③個人形

個人組手

団体組手

⑦1・2年生大会

個人形

個人組手

田中佑太 1回戦敗退
小池翔太 1回戦敗退
小此木亮 3回戦敗退
1回戦 高崎5-0太田東
2回戦 高崎4-1高崎東
3回戦 高崎1-4沼田
新井超統 予選敗退
徳江俊一 予選敗退
新井康広 3回戦敗退
林 慎彰 1回戦敗退
小此木亮 2回戦敗退
笠原 俊 2回戦敗退
1回戦 高崎2-2渋川
(延長の結果敗退)
徳江俊一 予選敗退
笠原 俊 予選敗退
徳田和貴 0-8商大附(1回戦)
新井超統 0-6商大附(1回戦)
戸塚晴信 0-3桐生工(1回戦)
林 慎彰 6-3利根実(1回戦)
2-7前橋西 (2回戦)

剣道部

①団体 1回戦 高崎0-1沼田
個人 北野 ベスト32
③団体 2回戦 高崎 吉井
個人 星野 ベスト16

弓道部

⑦高崎市弓道大会(高校生の部)
堀越晃輔 3位
藤守崇洋 6位

硬式野球部

○春季関東高校野球大会群馬県予選
2回戦 高崎11-1堀恋
3回戦 高崎0-7高崎商
○全国高等学校野球選手権大会群馬県大会
2回戦 高崎2-1桐生西
3回戦 高崎0-2伊勢崎東
○秋季関東高校野球大会群馬県予選
2回戦 高崎3-9高崎北

サッカー部

①2回戦 高崎5-0共愛
3回戦 高崎0-3桐生(ベスト16)
③1回戦 高崎2-1常盤
2回戦 高崎2-1共愛
3回戦 高崎0-9育英(ベスト16)
⑦全国高校サッカー選手権大会群馬県大会
2回戦 高崎1-1伊勢崎東(ベスト32)
(PK 4-5)

山岳部

①第5位
②出場

柔道部

- ①団体戦 ベスト8
個人戦 池田明示 ベスト16
- ③団体戦 ベスト8
個人戦 天田俊祐(81kg級) 第3位
吉田将治(90kg級) 第3位
- ⑦県高校学年別柔道大会
3年の部 天田俊祐 第2位
2年の部 佐藤貴浩 第2位
群馬県少年強化選手選考会
井上貴仁(66kg級) 優勝
佐藤貴浩(73kg級) 第3位
吉田将治(90kg級) 優勝

水泳部

- ①今泉裕太 五十m自由形 1位
百m自由形 2位
紋谷祐爾 五十m自由形 7位
四百mメドレーリレー 7位
(深津・紋谷・今泉・池田)
- 四百mリレー 4位
(紋谷・佐俣・今泉・池田)
- 八百mリレー 6位
(今泉・紋谷・南・佐俣)
- 学校対抗 第6位
- ②今泉裕太 五十m自由形 出場
百m自由形 出場
- ③今泉裕太 五十m自由形 1位
百m自由形 3位
紋谷祐爾 二百m自由形 8位
四百mメドレーリレー 6位
(今泉・紋谷・佐俣・池田)
- 四百mリレー 5位
(紋谷・今泉・佐俣・池田)
- 八百mリレー 6位

(今泉・紋谷・根岸・深津)

- 学校対抗 第5位
- ⑤今泉裕太 少年A八百mリレー9位
⑥清水文也 二百m背泳ぎ 2位
百m背泳ぎ 7位
柴崎雄貴 百m背泳ぎ 8位
伊能知彦 百mバタフライ 6位
新井聖貴 百m平泳ぎ 7位
四百mメドレーリレー 2位
(清水文・伊能・柴崎・清水駿)
- 二百mリレー 4位
(柴崎・新井・清水文・清水駿)
- 四百mリレー 1位
(柴崎・佐藤・桑原・清水文)
- ⑦春季新人水泳大会
佐俣友規 五十mバタフライ 4位
五十m自由形 8位

スキー・スケート部

- ①大回転 園田悠樹 13位
回転 園田悠樹 7位
- ②大回転 園田悠樹 17位
回転 園田悠樹 6位
- ④回転 園田悠樹 52位

ソフトテニス部

- ①団体 2回戦 高崎3-0前橋南
3回戦 高崎2-0富岡
4回戦 高崎2-0高崎北
決勝リーグ 高崎0-3農大二
高崎2-1伊勢崎市
高崎1-2前橋商
- 個人 植松・今井組 ベスト8
片山・木村組 ベスト8
千田・西田組 ベスト16

②団体 1回戦 高崎3-0市川(山梨県)
2回戦 高崎1-2真岡(栃木県)

個人 植松・今井組

- 2回戦 4-2佼成学園
3回戦 3-4川越東
片山・木村組
2回戦 0-4大宮開成
千田・西田組
1回戦 0-4川越東
③団体 2回戦 高崎3-0樹徳
3回戦 高崎2-0青翠
4回戦 高崎2-0沼田
準決勝 高崎0-2前橋商 第3位

個人 植松・今井組 第7位

⑥団体 2回戦 高崎3-0桐生
3回戦 高崎2-1中之条
4回戦 高崎1-2前橋

個人 植村・西田組 第3位
富所・神宮組 ベスト8

⑦ハイスクールジャパンカップ県予選
園分・山口組 第3位
富所・神宮組 第3位

卓球部

- ①団体 1回戦 高崎3-0興学校
2回戦 高崎3-2伊勢崎東
3回戦 高崎0-3前橋東
- 個人 シングルス
武井悠 ベスト32
佐藤健介 ベスト64
- ③団体 1回戦 高崎1-3農大二
- ⑦県強化大会
個人 シングルス 山田悠太 ベスト64

テニス部

- ①団体戦 3位
個人戦 シングルス 新開康平 3位
ダブルス 石黒・佳谷組 ベスト8
- ③団体戦 ベスト8
個人戦 シングルス 新開康平 ベスト8
ダブルス 新開・河野組 優勝
- ⑥個人戦 シングルス 新開康平 3位

軟式野球部

- ①1回戦 高崎7-1前橋工
2回戦 高崎11-2桐生一
準々決勝 高崎0-7前橋商
- ③1回戦 高崎9-2桐生一
2回戦 高崎0-10桐生
⑥1回戦 高崎2-5前橋

バスケット部

- ①2回戦 高崎135-22勢多農
3回戦 高崎119-25前橋市
4回戦 高崎110-27高崎北
準々決勝 高崎83-93前橋商 第5位
- ③1回戦 高崎117-8大間々
2回戦 高崎124-14堀恋
3回戦 高崎90-60前橋東
準々決勝 高崎67-128育英 第5位
- ⑥1回戦 高崎150-6常盤
2回戦 高崎79-57吉井
3回戦 高崎81-52館林
4回戦 高崎72-67桐生
決勝リーグ 高崎67-81高崎商
高崎68-70樹徳
高崎47-80育英 第4位

バレーボール部

- ①4回戦 高崎2-0 渋川工
準々決勝 高崎0-2 伊勢崎 ベスト8
③4回戦 高崎2-1 太田東
準々決勝 高崎2-0 明和県央
準決勝 高崎0-2 伊勢崎 第3位
⑦西毛地区大会
2回戦 高崎2-0 富岡
準決勝 高崎2-0 高崎工
決勝 高崎1-2 高崎北 準優勝

ラグビー部

- ①1回戦 高崎19-22 桐生
⑥高崎24-12 前橋東・前橋工・桐生工(合同)
高崎10-17 伊勢崎東
⑦1年生大会 合同チームとして出場
高崎5-19 前橋・前橋東
高崎22-19 渋川・渋川工・高崎工・中央
高崎0-12 興陽・伊勢崎・桐生・桐生工
合同チームの部3位
全国高校ラグビー大会群馬県予選
予選リーグ 高崎19-20 太田
高崎127-0 渋川 2位通過

陸上部

- ①星野慎也 千五百m 5位
橋本 隼 五千m 5位
小林祐斗 三千mSC 6位
伊丹達生 やり投げ 4位
⑥浅沼孝治 八百m 3位

棒高跳

梅山伸太郎 5位

高濱郁彦 走り幅跳 8位

大崎雄也 五千m 2位

土屋貴弘 三千メートルSC 6位

小林祐斗 三千mSC 3位

松田貴之 走り高跳 6位

⑦学校対抗 星野慎也 千五百m 4位

長部量大 三千メートルSC 4位

伊丹達生 やり投げ 1位

小林祐斗 三千mSC 6位

田村 司 砲丸投げ 7位

浅沼孝治 八百m 8位

梅山伸太郎 棒高跳 6位

橋本 隼 五千m 4位

大崎雄也 五千m 7位

松田貴之 走り高跳 8位

四×四百mリレー 8位

(唐澤・長部・浅沼・中島)

総合 男子一部 6位

バドミントン部

①団体戦 2回戦 高崎2-1 渋川青翠

3回戦 高崎0-2 桐生

個人戦 シングルス

井田悠一郎・岡田拓也 4回戦

大久保貴幸・柴田亮介・滝川寛之

ダブルス ベスト64

大久保・柴田組 4回戦(ベスト32)

土屋・新井組・神田・岡田組

滝川・小出組 3回戦

③1回戦 高崎3-0 渋川青翠

2回戦 高崎0-3 前橋東

学芸部

将棋・囲碁部

【囲碁】

○第二十九回全国高等学校囲碁選手権大会

大会群馬県大会

団体戦 優勝

個人戦 清水健登 準優勝

青山英樹 3位

○第二十九回全国高等学校囲碁選手権大会

団体戦 出場

○第二十九回全国高等学校総合文化祭

県代表 清水健登(個人)

青山英樹(団体)

【将棋】

○群馬県高等学校将棋選手権大会

団体A 優勝

(山田・井上・高橋)

個人 柴山和明 3位

高橋 学 5位

中里拓磨 5位

○全国高等学校将棋選手権大会

団体 高崎1-2 土佐塾(高知)

(山田・井上・高橋)

○関東高文連将棋大会群馬県予選

個人Aクラス 高橋 学 5位

井上知也 5位

田中 馨 5位

柴山和明 5位

河野浩明 優勝

三村健介 2位

吹奏楽部

○第47回県吹奏楽コンクール

A組 銀賞

○第9回県ソロコンテスト

横山拓未 金賞(フルート)

新聞部

○第19回群馬県高校新聞コンクール

県教育長賞(3位)

○第9回全国高校新聞年間紙面審査 優良賞

美術部

○第二十九回群馬県高等学校芸術祭

美術部門展覧会

優良賞 岩崎修平

弁論部

○群馬県高等学校弁論大会

大嶋慎也 優秀賞

○関東ソロブチミスト弁論大会

大嶋慎也 出場

写真部

○第1回スポーツパラダイス

大阪フォトコンテスト

入選

○写真甲子園二〇〇五関東ブロック

決勝進出

鉄道研究部

○群馬公共交通フェア出展

マンドリン部

○第35回群馬県マンドリンフェスティバル

優良賞

第59回定期戦

今年の定期戦は「3連勝」、「アウェイでの勝利」、様々な期待を胸に秘め第59回定期戦が開幕した。

一般対抗では高同のお家芸である水泳が昨年の負け越しという屈辱からか見事完全勝利をおさめた。この水泳での勝利は間違いなく高同生を勢いづけただろう。その後部対抗も行われ、高同18-前高21と3点のビハインドで本戦を迎えた。3連勝を狙う高同、それを阻止すべく奮闘する前高。両校の並々ならぬ気迫がぶつかり、本戦は凄まじい盛り上がりを見せた。しかし高同生の健闘むなしく結果は前高の勝利というかたちで幕を閉じた。

敗北からは何も得られないと思っていた。しかし何故かいま自分はとてもすがすがしい達成感を感じている。定期戦3年目にしてようやくこの高同定期戦を行う意味がわかったような気がする。これほど熱くこれほどがむしゃらになれる行事は他にない。OBの方々もこの定期戦を通じて得たものは大きかったことと思う。だからこそこの定期戦という行事が伝統として生き続けているのであろう。高同生、前高生の両校の生徒にはこれからもお互いに刺激し合い自らの高めることでこの伝統を続けて欲しい。

伝統より更に栄えあれ

第五十九回定期戦実行委員長 岸 基弘

進路状況 (全日制) ()内は現役

大学	年次	15年	16年	17年	大学	年次	15年	16年	17年
北大		7(6)	4(4)	6(4)	慶應大		36(21)	59(48)	100(84)
東北大		23(16)	17(15)	30(25)	早稲田大		53(33)	73(51)	108(78)
筑波大		3(1)	6(5)	11(9)	中央大		47(33)	61(50)	121(101)
千葉大		8(7)	10(5)	12(10)	明治大		45(30)	53(39)	87(68)
群馬大		23(16)	20(18)	40(37)	上智大		9(3)	8(7)	7(3)
(医)		5(4)	5(5)	8(6)	立教大		19(14)	21(18)	33(22)
埼玉大		4(1)	4(2)	5(5)	学習院大		2(0)	5(1)	4(2)
東京大		12(7)	12(11)	14(13)	青山学院大		16(12)	13(8)	29(23)
一橋大		0(0)	1(1)	7(6)	法政大		25(19)	31(27)	37(30)
東工大		1(1)	6(6)	9(8)	日本大		53(36)	53(37)	78(67)
横国大		7(7)	6(4)	5(5)	東京理科大		75(54)	81(63)	130(108)
新潟大		15(10)	12(9)	12(12)	芝浦工業大		44(36)	31(27)	38(31)
金沢大		7(5)	6(5)	8(7)	同志社大		5(5)	4(4)	5(5)
信州大		1(0)	7(6)	2(2)	立命館大		27(21)	12(11)	52(47)
名古屋大		4(4)	2(2)	1(1)					
京都大		3(2)	6(4)	8(8)	高経大		11(7)	9(8)	9(9)

第59回定期戦得点表

部対抗		種目	一般対抗	
高同	前高		高同	前高
		水泳	9	0
		駅伝	6	3
		綱引き	0	9
		玉入れ	3	6
		ソフトボール	0	9
0	6	卓球	4	5
0	6	陸上競技	6	3
6	0	ソフトテニス	0	9
6	0	バレーボール	2	7
6	0	バスケットボール	5	4
6	0	柔道		
0	6	剣道		
0	6	弓道		
0	6	空手道		
0	6	サッカー		
6	0	ラグビー		
0	6	硬式野球		
0	6	軟式野球		
6	0	硬式テニス		
36	48	小計	35	55
71	高同	総合	前高	103

人事異動 (平成17年度)

退任者・転出者

事務部長 八木 勝利 定年退職

保健体育 高橋 賢作 定年退職

理科(物理) 猿谷 亮司 藤岡中央高教頭(昇任)

理科(生物) 塚越 究 前橋南高

保健体育 坂田 和文 桐生高

国語 丸山 直樹 藤岡中央高

数 学 丸橋 寛 県教育委員会事務局

実習助手 本木多美子 前橋東高

事務長代理 須永由紀夫 前橋西高事務長(昇任)

新任者

事務長 長井 秀夫 高崎東高

理科(物理) 小林 正好 富岡高

数 学 仲谷 佳郎 前橋女子高

体 育 田島 正徳 高崎経済大学附属高

国語 島田 学 吉井高

理科(生物) 前田 敏明 前橋南高

体 育 笠原 恵太 桐生高

体 育 清光 竜児 群馬大学専攻科卒

実習助手 久保田敦子 前橋東高

事務長代理 金井 工 妙義少年自然の家

高高同窓会 予算決算報告

平成16年度 通常会計 (平成16年1月1日～平成16年12月31日)			
収入の部			
費 目	平成16年度予算	平成16年度実収入	備 考
前年度からの繰越金	553,466	553,466	
入 会 金	3,000,000	2,970,000	356人
維持会費	6,000,000	5,976,460	2,117人
利 息	534	69	
雑 収 入	10,000	411,760	百年史会計功徳入、寄付(45期 松田氏)ほか
合 計	9,564,000	9,911,775	

支出の部			
費 目	平成16年度予算	平成16年度実支出	備 考
会 議 費	1,000,000	988,120	新年総会準備金ほか
祝 賀 費	800,000	676,265	叙勲記念、卒業九周年ほか
経 別 費	300,000	160,000	平成16年度離任職員
慶 弔 費	200,000	65,920	葬儀花輪代等
通信印刷費	500,000	466,859	維持会費納入礼状、電話代、郵送料等
旅 費	100,000	40,000	東京同窓会出席者旅費
会報発送費	2,000,000	1,737,081	
同窓会報費	1,000,000	868,114	
事 務 費	1,500,000	1,293,471	事務職員人件費、事務用品等
同窓会長賞費	200,000	113,442	文鎮代
補 助 費	600,000	600,000	図書館、翠雲体育会へ各30万円
環境整備費	500,000	377,000	指月庭整備等
雑 費	300,000	143,430	維持会費振込手数料、維持会費戻し
予 備 費	564,000	0	
合 計	9,564,000	7,529,702	

差引残高 2,382,073円

特別会計積立			
収入の部			
前年度からの繰越金	11,213,326		
平成15年度通常会計より	2,000,000		
利 息	1,977		
合 計	13,215,303		
支出の部			
な し			
差引残高	13,215,303円		

平成17年度 通常会計予算案 (平成17年1月1日～平成17年12月31日)				
収入の部				
費 目	平成16年度予算	前年度予算	増 Δ減	備 考
前年度からの繰越金	382,073	553,466	Δ171,393	
入 会 金	3,000,000	3,000,000	0	
維持会費	6,000,000	6,000,000	0	
利 息	27	534	Δ507	
雑 収 入	10,000	10,000	0	
合 計	9,392,100	9,564,000	Δ171,900	

支出の部				
費 目	平成17年度予算	前年度予算	増 Δ減	備 考
会 議 費	1,000,000	1,000,000	0	新年総会準備金ほか
祝 賀 費	800,000	800,000	0	
経 別 費	300,000	300,000	0	
慶 弔 費	200,000	200,000	0	
通信印刷費	500,000	500,000	0	
旅 費	100,000	100,000	0	
会報発送費	2,000,000	2,000,000	0	
同窓会報費	1,000,000	1,000,000	0	
事 務 費	1,500,000	1,500,000	0	
同窓会長賞費	200,000	200,000	0	
補 助 費	600,000	600,000	0	翠雲体育会・図書館
環境整備費	500,000	500,000	0	指月庭整備
雑 費	300,000	300,000	0	
予 備 費	393,900	564,000	Δ171,900	
合 計	9,392,100	9,564,000	Δ171,900	

特別会計積立			支出の部	
収入の部			な し	
費 目	金 額			
前年度からの繰越金	13,215,303			
平成16年度通常会計より	2,000,000			
利 息	4,697			
合 計	15,220,000			

同窓生の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。今回の新年総会は、私達75期が担当させていただくこととなりました。心に残る新年総会になることを目標に、諸先輩のご指導、ご助言を仰ぎながら準備を進めております。懇親会も、楽しい会になるように企画の準備を進めておりますのでご期待ください。

期日 平成十八年一月二十八日(土)
時間 午後三時より
場所 高崎ビューホテル
会費 五千元
(当番期75期代表 橋爪 良真)

第104回高崎同窓会新年総会のご案内

同期の方々、先輩後輩の方々お誘い合わせのうえ一人でも多くの、同窓生の皆様のご出席を心よりお待ちしております。

第12回 高崎高校同窓会ゴルフ大会結果報告

第12回高崎高校同窓会ゴルフ大会が、平成17年5月8日(日)伊香保ゴルフ倶楽部同窓会コースにおいて開催されました。ゴルフデンウィーク最終日にもかかわらず実質参加メンバー232名と過去最大のご参加を頂き、盛大に実施することが出来ました。終日天気にも恵まれ(最後はちょっと雨になりましたが)同窓生の、悲喜こもごもの姿を拝見する事が出来ました。そのような事情で表彰式、パーティーの実施が大幅に遅れ皆様には大変ご迷惑をお掛け致しました。この場をお借りしてお詫言申し上げます。

又、今回団体戦(期別対抗戦各期上位4位)グロスの部、ネットの部を実施し、各期精鋭部隊による争いも見応えのあるものになりました。最後迄優勝の行方が解らず集計作業も大変でしたが、団体戦のグロスの部は68期、ネットの部は次回幹事期の69期の皆さんが、栄えある第1回優勝チームとなりました。ショートホールでのチャリティー(ワンオン出来なかった方々)にも快く応じていただき、スライラン育英会等に寄附させて頂きました。後日談ですが、この大会参加者よりメンバーを返り送り、第7回対抗戦高校OB大会を実施し今年も勝利し通算6勝1敗とすることが出来ました。今後も同窓会ゴルフ大会が盛大に開催されることを祈ります。【68期 後藤次一】

順位	氏名	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	立見 友孝(63期)	38	40	78	9.6	68.4
準優勝	小坂橋 宏(66期)	40	41	81	10.8	70.2
第3位	藤川 源(60期)	50	47	97	28.4	70.8
第4位	高橋 源(66期)	47	44	91	20.4	70.8
第5位	小野里 篤(66期)	37	38	75	2.4	70.8
ベストグロス						
第1位	新井 忠雄(73期)	73	68	141		
第2位	深田 真治(75期)	75	68	143		
第3位	小池 信夫(77期)	77	72	149		
団体戦(期別対抗戦)						
				グロスの部 68期(313.80)		
				ネットの部 68期(285.80)		

○維持会費の納入について
平成18年度の維持会費の納入をお願い致します。納入については、同封の振込取扱票(加入者名「群馬県立高崎高等学校同窓会」)をお使いください。詳細については振込取扱票の裏面に記載してありますので、よく御覧ください。

■編集後記
同窓の皆様の多大なる御協力をいただき、会報39号が発刊できました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。御多忙の中、貴重な原稿やお写真をお寄せ下さいまして、まことにありがとうございます。【本部幹事会】